

久留米大学では、受診時に患者さんから取得された診療情報等を使用して下記の研究を行っています。本研究で使用される診療情報等は他機関への提供は行いません。

なお、下記研究は久留米大学の倫理委員会にて「社会的に重要性が高い研究」等の特段の理由が認められ、研究機関長の承認を得て実施しています。当該診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化処理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡下さい。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。なお、その申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。

【研究課題名】

自己免疫性膵炎におけるステロイド治療前後の超音波内視鏡所見の変化に関する後方視的検討

【診療情報の対象者（研究対象者）】

- 1) 受診期間：2011年1月から2019年8月の間に受診
- 2) 受診科：久留米大学病院消化器内科
- 3) 対象疾患名：自己免疫性膵炎臨床診断基準 2018 で自己免疫性膵炎と診断された方

【診療情報等の項目】

診療情報等：【年齢、性別、身長・体重、病歴、既往歴、治療歴、血液検査データ、画像データ 等】

【研究目的】

自己免疫性膵炎は、ステロイドに反応する膵の腫大・腫瘤で、しばしば膵癌との鑑別が問題となる疾患です。2002年に世界に先駆け、日本膵臓学会から自己免疫性膵炎診断基準が提唱されました。その後3回の改訂を経て、診断基準の普及により自己免疫性膵炎の報告例が増加しています。超音波内視鏡は高い局所分解能を有しており、膵疾患の診断、特に腫瘤性病変の診断に有用です。最近では、その高い局所分解能から早期慢性膵炎における線維化を反映するとされる超音波内視鏡所見が確立されつつあります。そこで、今回の検討では自己免疫性膵炎におけるステロイド治療前後の超音波内視鏡所見の変化をCT所見と併せて後方視的に検討して分類し、再燃例との比較検討を行うことで臨床的意義を見出すことを目的とします。

【研究（利用）期間】

久留米大学倫理委員会承認後から2025年7月まで

【利益相反に関する事項】

本研究は特定企業からの資金援助はないため利益相反は発生しません

【問い合わせ先】

研究責任者（使用する情報の管理責任者）：

久留米大学医学部 内科学講座 消化器内科部門 准教授 岡部 義信

問い合わせ担当者：久留米大学医学部内科学講座 消化器内科部門 島松 裕

電話：0942-31-7561